

◆ 地域社会との繋がりや貢献をさらに強めていく必要がある。

操業間もないため、地域経済や雇用創出への効果については、まだ十分とはいえません。また公園緑地施設などについては、PR不足などもあり、今後、地域とともに、より一層の活用を図っていく必要もあります。

地域社会の一員として親しまれる資源循環工場になるよう努めていく必要があります。

### 3 今後の取組

これまでの効果と課題を踏まえて、資源循環工場のより良い運営のため、適正な役割分担の下、地域の理解を得ながら、以下の取組を、今後、検討・実施していきます。

☆ 資源循環工場の取組を発信し、リサイクルの拡大を図る。

循環型社会構築のリーディングプロジェクトとして、資源循環工場の取組を広く発信していきます。また、グリーン購入の拡大・強化など、率先してリサイクル需要の拡大に努め、リサイクル全体の向上に繋がる情報の発信拠点としていきます。

☆ 技術の進展や市場の動向に応じ、新技術導入や運営改善を円滑に行うことができる仕組みをつくっていく。

法令の手続きや地域の合意形成が円滑に進むよう、ルールや手続きなどのあり方を検討していきます。

☆ 地域の大学や研究機関などを活用し、産学官の連携による事業展開を、一層促進していく。

本庄国際リサーチパーク推進機構を中心とした現在の取組を拡充していきます。また産学官の連携により、技術開発の信頼性の確保や最新の動向に対応するとともに、異業種との連携などにつなげ、産業集積の効果を高めていきます。